

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 9 月 13 日 (2007.9.13)

【公表番号】特表 2007-500770 (P2007-500770A)

【公表日】平成 19 年 1 月 18 日 (2007.1.18)

【年通号数】公開・登録公報 2007-002

【出願番号】特願 2006-522062 (P2006-522062)

【国際特許分類】

C 1 0 M 105/24 (2006.01)

C 1 0 M 159/12 (2006.01)

A 6 1 K 47/12 (2006.01)

C 1 0 N 10/04 (2006.01)

C 1 0 N 20/00 (2006.01)

C 1 0 N 30/00 (2006.01)

C 1 0 N 30/06 (2006.01)

C 1 0 N 40/20 (2006.01)

C 1 0 N 70/00 (2006.01)

【F I】

C 1 0 M 105/24

C 1 0 M 159/12

A 6 1 K 47/12

C 1 0 N 10:04

C 1 0 N 20:00 Z

C 1 0 N 30:00 Z

C 1 0 N 30:06

C 1 0 N 40:20

C 1 0 N 70:00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

塩基性水性溶液中の少なくとも 1 種の脂肪酸、但し、該脂肪酸は、少なくとも 80 重量 % のステアリン酸および少なくとも 5 重量 % のパルミチン酸を含むものである、と、少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートとの反応生成物、を含んでなる、アルカリ土類金属ステアレート組成物。

【請求項 2】

該脂肪酸が、88 重量 % のステアリン酸および 10 重量 % のパルミチン酸を含むものである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

該脂肪酸が、90 重量 % のステアリン酸および 8 重量 % のパルミチン酸を含むものである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

該脂肪酸が、93 重量 % のステアリン酸および 5 重量 % のパルミチン酸を含むものであ

る、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

アルカリ土類金属サルフェートが、硫酸マグネシウムおよび硫酸カルシウムからなる群から選択される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

塩基性水性溶液中の少なくとも 1 種の脂肪酸、但し、該脂肪酸は、少なくとも 80 重量 % のステアリン酸および少なくとも 5 重量 % のパルミチン酸を含むものである、と、硫酸マグネシウムとの反応生成物を含んでなる、ステアリン酸マグネシウム組成物。

【請求項 7】

該脂肪酸が、88 重量 % のステアリン酸および 10 重量 % のパルミチン酸を含むものである、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

該脂肪酸が、90 重量 % のステアリン酸および 8 重量 % のパルミチン酸を含むものである、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 9】

該脂肪酸が、93 重量 % のステアリン酸および 5 重量 % のパルミチン酸を含むものである、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 10】

塩基性水性溶液を用意すること；
該塩基性水性溶液中に、少なくとも 80 重量 % のステアリン酸および少なくとも 5 重量 % のパルミチン酸を含む少なくとも 1 種の脂肪酸を加入すること；および、
少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えてアルカリ土類金属ステアレート組成物を生成させること、
を含む、アルカリ土類金属ステアレート組成物の製法。

【請求項 11】

少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えた後、pH をアルカリ性に調節することをさらに含む、請求項 10 に記載の製法。

【請求項 12】

固 - 液分離を生起させて、アルカリ土類金属ステアレート組成物を回収することをさらに含む、請求項 10 に記載の製法。

【請求項 13】

アルカリ土類金属が、マグネシウムおよびカルシウムからなる群から選択される、請求項 10 に記載の製法。

【請求項 14】

塩基性水性溶液を用意すること；
該塩基性水性溶液中に、少なくとも 88 重量 % のステアリン酸および少なくとも 10 重量 % のパルミチン酸を含む少なくとも 1 種の脂肪酸を加入すること；および、
少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えてアルカリ土類金属ステアレート組成物を生成させること、
を含む、アルカリ土類金属ステアレート組成物の製法。

【請求項 15】

該少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えた後、pH をアルカリ性に調節することをさらに含む、請求項 14 に記載の製法。

【請求項 16】

固 - 液分離を生起させて、アルカリ土類金属ステアレート組成物を回収することをさらに含む、請求項 14 に記載の製法。

【請求項 17】

アルカリ土類金属が、マグネシウムおよびカルシウムからなる群から選択される、請求項 14 に記載の製法。

【請求項 18】

塩基性水性溶液を用意すること；

該塩基性水性溶液中に、少なくとも 90 重量 % のステアリン酸および少なくとも 8 重量 % のパルミチン酸を含む少なくとも 1 種の脂肪酸を加入し、該塩基性水性溶液を、該少なくとも 1 種の脂肪酸が該塩基性水性溶液内で分散するに至る温度まで加熱すること；および

、
少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えてアルカリ土類金属ステアレート組成物を生成させること、

を含む、アルカリ土類金属ステアレート組成物の製法。

【請求項 19】

該少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加えた後、pH をアルカリ性に調節することをさらに含む、請求項 18 に記載の製法。

【請求項 20】

固 - 液分離を生起させて、アルカリ土類金属ステアレート組成物を回収することをさらに含む、請求項 18 に記載の製法。

【請求項 21】

アルカリ土類金属が、マグネシウムおよびカルシウムからなる群から選択される、請求項 18 に記載の製法。

【請求項 22】

塩基性水性溶液を用意すること；

該塩基性水性溶液を加熱すること；

該塩基性水性溶液中に、少なくとも 93 重量 % のステアリン酸および少なくとも 5 重量 % のパルミチン酸を含む少なくとも 1 種の脂肪酸を加入し、該塩基性水性溶液を、該少なくとも 1 種の脂肪酸が該塩基性水性溶液内で分散するに至る温度まで加熱すること；

硫酸マグネシウム溶液を加入して、硫酸マグネシウムを該少なくとも 1 種の脂肪酸と反応させ、マグネシウムステアレート組成物を生成させること；および、

pH をアルカリ性に調節すること；

を含む、マグネシウムステアレート組成物の製法。

【請求項 23】

pH を 9.0 ないし 9.5 に調節する、請求項 22 に記載の製法。

【請求項 24】

固 - 液分離を生起させて、マグネシウムステアレート組成物を回収することをさらに含む、請求項 22 に記載の製法。

【請求項 25】

少なくとも 1 種の脂肪酸、但し、該脂肪酸はパルミチン酸に対して少なくとも 10 : 1 重量比のステアリン酸を含み、かつ、水分総含量が 6 % 以下である、の塩基性水性溶液と少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートとの反応生成物を含んでなる、アルカリ土類金属ステアレート組成物。

【請求項 26】

該水分総含量が、15 % ないし 100 % のジ水和物結晶水；10 % 以下の自由水；および残余のモノ水和物を含んでなる、請求項 25 に記載の組成物。

【請求項 27】

アルカリ土類金属サルフェートが、硫酸マグネシウムおよび硫酸カルシウムからなる群から選択される、請求項 25 に記載の組成物。

【請求項 28】

塩基性水性溶液を用意すること；

該塩基性水性溶液中に、パルミチン酸に対して少なくとも 10 : 1 重量比のステアリン酸を含み、かつ、水分総含量が 6 % 以下である、少なくとも 1 種の脂肪酸を加入し、該塩基性水性溶液を、少なくとも 1 種の脂肪酸が該塩基性水性溶液内で分散するに至る温度まで加熱すること；および、

少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加入して、アルカリ土類金属ステアレ

ート組成物を形成させること；

を含む、アルカリ土類金属ステアレート組成物の製法。

【請求項 29】

該少なくとも 1 種のアルカリ土類金属サルフェートを加入した後、pH を実質的に中性の pH に調節することをさらに含む、請求項 28 に記載の製法。

【請求項 30】

固 - 液分離を生起させて、アルカリ土類金属ステアレート組成物を回収することをさらに含む、請求項 28 に記載の製法。

【請求項 31】

60 を超えない温度で、該アルカリ土類金属ステアレート組成物を乾燥することをさらに含む、請求項 28 に記載の製法。

【請求項 32】

アルカリ土類金属が、マグネシウムおよびカルシウムからなる群から選択される、請求項 28 に記載の製法。

【請求項 33】

該脂肪酸の水分総含量が、15% ないし 100% のジ水和物結晶水；10% 以下の自由水；および残余のモノ水和物を含んでなる、請求項 28 に記載の製法。